

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4391500016 | | |
| 法人名 | 有限会社 さかがわ | | |
| 事業所名 | グループホーム 優海 | | |
| 所在地 | 熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年10月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年1月5日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年11月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度実施した優海開設10周年記念式では、ホームの10年間の記録を映像と共に振り返った。開設と同時に歩んできた、利用者様と職員の姿がそこにあった。共に笑い、共に泣き、一つひとつを積み重ねていくことの難しさ、重要性、そしてそれはホームの力だけでは成し得なかったことであり、地域の方々の温かさ、協力があってこそと改めて実感をした。昔からの馴染みの利用者様が、お互いを思いやり、労り、日々生活を共にされている。又、職員の三分の二が勤続5年以上を経過しており、利用者様の笑顔に支えられながら勤務をしている。利用者様のできることの継続への支援は勿論、多方面からアプローチすることで利用者様の新しい姿を発見し、意欲の向上へと繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見慣れた天草の海を眺めながめながら、優しさや活気ある職員の支援は、入居者の日常に豊かな時間を提供している。開設から11年、入居者の中には、この11年共に年月を重ねてこられた方もおられる。医療支援や食材購入をはじめ、離島がゆえに困難や苦勞もあると察するが、診療所医師との信頼関係は入居者の健康や持ち味、最期までホームでの生活を望まれる家族の思いを支えている。また、入居者に美味しいと喜んでもらえるよう、食材を活かした料理や笑顔を引き出す食事支援の場面は変わることなく大切にされている。入居者同様、特技や持ち味を活かせることは働きやすい職場環境となり、離職の少なさもホームの特徴の一つである。『遊海』ならではの支援は、入居者や家族の安心・信頼に繋がっており、久しぶりに訪れる者にも、帰りの道中を笑顔にさせてくれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 29年度事業所目標は、「理想を持つ、目標を持つ、信念を持つ」を掲げている。毎朝の朝礼で唱和し再認識をすることで、全職員がそれぞれの意思を持ちながらも、基本理念である「今日も穏やかに、にこやかに」の実現、実践へと繋げている。 | ホームの理念を基に毎年掲げる年目標は職員が設定し、個々のスキル向上を目指しながら、入居者に関わる確固たる決意が表れている。開所以来離職の少ない職場は、入居者・職員の双方にとって単なる仕事場という概念を超え、共に暮らす一軒の家として活動していることは、家族や地域も認めるところである。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地区の行事開催などの情報を把握し、参加・見物に出掛けていただいている。花火大会や秋祭りへの寄付も行い、地域の一員として今後も関わりが継続できるように努めている。 | 離島という地域性がそこに住む人々の団結や支え合いの精神となってホームを後押ししている。地元から通う職員や近隣者からの情報は外出の機会となり、祭りや島をあげてのマラソン見学に出掛けたり、昨年はホーム10周年の祝会を地域の中で開催している。また、地域資源である新鮮な海産物や近隣からの差し入れ野菜が食事を彩り、入居者の楽しみとなっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 中学生や老人会のボランティアの受け入れを通じて、認知症への理解を求めている。又、来訪して下さった方々にありのままの日常を見ていただき、感じていただくことで、認知症の理解に繋がるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域包括の職員や、老人会の副会長、社会福祉協議会いさな館の職員、地域振興会の会長に参加、協力を頂いている。率直、的確な意見を頂くことも多く、頂いた貴重な意見は職員間で共有し、実践に繋げている。広報誌を通じて、御家族の方にも会議の内容をお伝えしている。 | 会議には包括や社協の職員・地域の代表者らが参加している。会議の席をホームの情報発信や地域からの意見収集の場とし、参加者からの質問にも丁寧に応じている。ホームは普段の交流からも地域の人々の声を吸い上げ、運営に反映させており、10周年の祝会に“御所浦おんど”を皆で踊ったらどうか？などの提案も実現している。家族の参加は少ないようであるが、内容は広報誌や玄関先に開示して発信している。 | 引き続き家族へ参加を呼びかけたり、中学校のナイスライなどの受け入れを通じ、学校関係者へその前後に参加を打診する等検討願いたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の集団指導やメールなどで情報を頂いており、不明な点等は担当者へ連絡、相談をし、適切な指示やアドバイスを受けている。 | 運営推進会議への包括からの参加により、ホームの現状を共有し助言や提案をもらっている。また、昨年より介護安心相談員を受け入れており、一緒にレクレーションへの参加を依頼し、入居者との会話から要望などを引き出してもらい日々のケアに活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日常生活において身体拘束は行っていない。また、全職員がしてはならないという共通認識を持って支援をしている。玄関は防犯、利用者の安全確保の面から、夜間のみ施錠をしているが、日中はオープンにしており利用者が自由に出入りできるようにしている。 | 職員は身体拘束による弊害をしっかりと認識しており、行わないことを基本としてケアにあたっている。日々の申し送りなどでも、新聞やテレビから実際に起こった事例について考える機会を持っている。日中の玄関は安全面に配慮しながら常にオープンであり、外出傾向の入居者へも職員がさりげなく寄り添い、近隣を散歩して帰るなどの対応をしている。 | 入居者の中にはセンサーマットを使用する方がおられるが、家族への説明と承諾を得ており、今後も引き続き必要の是非や説明を望みたい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部勉強会を設け、全職員が虐待はあってはならない、という共通認識の下、支援をしている。常に利用者の身体的、精神的変化にも目を配り、職員間で情報を共有し話し合うことで、より良い支援が出来るよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見制度を利用されている方がおられ、管理者が研修会等を通して制度や事業に関し学んだ内容を、口頭もしくは資料を通して全職員に発信している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 口頭、文章で説明を行い、疑問や不明点に関しても、納得いただけるよう説明を行っている。又、希望される方に関しては、契約前に見学に来ていただき安心して契約していただけるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族の面会時や、電話で頂いた意見や要望は、その都度記録に残し、全職員で情報を共有している。 | 遠方の家族もおられる中、定期的な面会が実現している。家族の中には感謝の言葉と共に「出来るだけやれる事をさせて欲しい」といった意見もあり、個々の得意とされる料理や掃除、レクリエーションに参加してもらう事などをプランにあげている。入居者の中には自ら要望を言われる方もおられるが、困難な方には表情やしぐさから推察し、家族と一緒に実現できるようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者や管理者を含めたミーティングや勉強会兼食事会を定期的に行っており、職員との情報交換を行っている。 | 開所時からホームを見てきた職員や、5年以上勤務する者が全体の3分の2という恵まれた職場環境となっている。2ヶ月ごとのミーティングや代表を交えた勉強会で職員は気づいた点を議題にあげ一つひとつを解決の方向へと導いている。地元商店を利用した親睦会で職員の更なる距離を縮め、協力体制を築いている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている | 昨年度末に職員自身の日頃のケアを振り返る自己評価シートの記入を行ってもらい、給与の見直しに反映させた。又、無理なく就労していただけることを前提に、正社員の定年制を廃止し、意欲のある職員に長く就労してもらえる環境を整えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各職員が研修に参加できるよう情報の提供や勤務シフトの調整を行っているが、参加回数は多くない。内部の勉強会や各位委員会の責任者を任せることで、スキルアップに繋げている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 熊本県地域密着型サービス連絡会天草ブロック会に加入しており、定期的な意見交換会や講習会に参加し交流を図っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人や相談者が来所された際に、相談内容を傾聴し不安の軽減、解消に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望や意見を傾聴すると共に、グループホームの役割を理解していただき、出来る限り不安が軽減した状態で入居いただけるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族が現在置かれている状況を踏まえながら問題点を把握し、何を必要としているのか見極め検討した上で、本人に合った最善の支援が出来るよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と交わす挨拶の中で「おかえり」「行ってらっしゃい」との利用者の言葉も聞かれている。共同で行う掃除、食事の支度など利用者と職員の「ありがとうございます」「又いつでもどうぞ」のやり取りは日常的な姿となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者にとって家族の存在の重要性を全職員が認識しており、面会の際はゆっくりと時間を共有できる空間と雰囲気を提供を心がけている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の知人にお会いした際、近況を尋ねられることも多く、職員から様子をお伝えしている。又、行きつけであった理容店へ定期的に出掛けたり、ドライブを兼ねて自宅付近を訪ねるなどの支援をしている。 | ホームは故郷の海や山を見下ろす高台にあり、馴染みの風景は入居者の安心するところとなっている。地元商店での買い物や車椅子を押しての理容室の利用、自宅近くへのドライブなど顔見知りの人々との出会いの機会が多くある。以前の経験を活かし調理に関わる方、朝から決まってコーヒーを楽しむ方などこれまでの特技や趣味が継続できる環境を用意している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 地域柄、利用者同士以前からの関わりが深く、意思の疎通が困難な場合も職員が間に入ることで、その関係性の継続ができるよう配慮し支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された方、亡くなられた方の家族にお会いする機会も多く、ホームの近況をお伝えすると同時に、いつでも立ち寄りいただくよう申し添えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活での本人の言葉を大切にしている。意思表示が困難な場合は、表情や仕草から本人の意思を汲み取り、職員間で情報の交換、共有をしながら本人の立場に立った支援をしている。 | アセスメントから入居者本人や家族の意向を確認し、面会時や遠方の方には電話にて更に思いを引き出す様に努めている。表現困難な入居者へは対応した時の顔の表情や声のトーンなどから最良の方法を探している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活環境については、入居時に本人や家族、担当CMから情報収集を行っているが、入居後も継続して本人の言動に気を配り、新たな情報の収集に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 睡眠状況や食事量、排泄パターンや日中の活動状況、表情を記録し把握した上で、検討すべき点は、早急に対応するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の関わりの中で、本人の意向や要望を把握し、家族の面会時にも要望を伺っている。利用者の担当職員を中心に検討すべき内容について意見交換を行い、介護計画に反映させている。 | 入居者や家族の声は日々の記録に残され、担当者会議ではホーム長を努める看護職員が同席しながら、健康面への助言などを含めプランに繋いでいる。入居者の退院後の変化時には特に身体状況の見極めや食事内容、食器の選定などに本人の意向を確認しながら暫定プランにて対応している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務日誌や個別の経過記録に、個人の日々の様子や言葉を記録すると共に、特記事項欄に気づきを記入した際は、口頭でも申し送りを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者に身体機能の変化が生じた際は、母体の事業者が福祉用具を取り扱っているため、ニーズに合わせた敏速な対応が可能である。家族の帰省に合わせた外泊時の送迎の支援や、島外への病院受診にも柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの方と一緒に畑作業をしていたり、月1回の移動図書館の訪問時は自ら好きな本を選んで読書を楽しんでいた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームの協力医療機関の診療所が、元々のかかりつけ医である方が殆どであるため、主治医とのスムーズな情報交換や連携が図れている。月1回の往診や、異常時の受診又は、必要であれば島外の医療機関への受診など、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 島内にある診療所をもとのかかりつけ医とされてきたが殆どであり、引き続き定期受診や必要に応じて往診が行われている。専門科においては、島外の医療機関への受診など、家族と連携しながら適切な医療を支援している。離島のため特に日常の健康管理に努めており、表情や食事・入浴・排泄など変化の見落としがないようにしている。体重測定も月1回や週1回など個々に応じて行っている。口腔ケアにも力を入れており、法人全体での研修会に参加し、正しいケアの方法を学び、実践に繋げている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の様子や健康管理表から得られた情報や気づきは、ホーム看護師又はかかりつけ医院の看護師に細かく報告することで、的確な指示をもらい早急、適切な受診が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院が必要となった場合は、家族に報告すると共に職員が病院まで付き添い、本人についての情報を提供している。退院の許可が出た後は、敏速に迎えに行けるようシフトの調整をするなどして対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に看取り指針にて意思確認を行っているが、実際に重度化された場合は、家族の気持ちにも変化が生じるため、医療機関や地域の関係者と連携を図りながら、事業所で出来ることの説明をしつつ方針を共有できるよう努めている。 | 重度化や終末期の支援については、入居時に指針をもとに説明を行った後、書面で意思確認を行っている。そのような状況になった場合はあらためて、家族や医師を含めて意向や今後の方向性を話し合っている。入居者がホームで良い時間を過ごされてきた事は家族にも十分伝わっており、可能な限り最期をホームでと望まれる現状である。管理者は日頃から、出来ることに精一杯努めることを伝えており、全職員がそのことを十分理解し日々のケアに取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し備えている。定期的に天草広域御所浦分署の協力を得て救急蘇生法の講習を実施している。就業1年未満の職員においては、社会福祉協議会主催の赤十字救急員要請講習を受講し、実践力を身につけるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防、避難訓練を実施している。現在リビング側の窓外にウッドデッキを設置工事中であり、避難経路の一つとする予定である。地震・水害に関しては、マニュアルを作成し運営推進会議で提示、周知していただいているが、避難訓練に関して現在シミュレーションのみに留まっている。 | 年2回の消防・避難訓練には消防署の参加協力が得られており、夜間想定訓練の必要性などを受けたアドバイスを実践に活かしている。リビング側にウッドデッキが設置され、避難経路の一つとされている。台風接近時はその都度、食料をはじめ対応を行っているが、地震・水害については、整備したマニュアルを運営推進会議で説明しており、訓練についてはシミュレーションの段階まで行っている。 | 掃除も安全点検の一つとして、埃が気になった個所は職員間で共有している。居室は担当職員が中心になって掃除を行っているが、テレビコンセントなど、今後も特に注意を払い進めたい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 申し送りやミーティングの際は利用者が特定できないよう、イニシャルを使用するなどの対応をしている。トイレの声かけや、口腔ケアへの誘導も利用者によって微妙に言葉のニュアンスを変えることでプライバシーを損ねない対応を心がけている。 | 呼称は苗字や下の名が安心される方や、入居者同士も以前から下の名で呼び合っていたなど、状況に応じて対応している。職員は入浴や排泄支援に限らず、口腔ケアへの誘導も個々に応じて対応している。同性介助については、勤務体制などの面から男性職員による入浴支援を行う場合は、希望を確認しながら進めている。職員の守秘義務については、入職時や会議の中でも小さな町であることから、十分配慮することを周知徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自ら意思表示や自己決定を行うのが困難な利用者については、表情や仕草から思いを汲み取れるよう心がけている。入浴や家事手伝い、レクリエーションへの参加など、その都度本人の意思を確認し決定していただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の体調や意向を見極め、個々のペースに考慮した支援を心がけている。活動参加へ気乗りされない方には、ゆっくりと過ごしていただき、何度も散歩に行きたいと希望される方には、その都度職員が同行している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 畑に行き作物を収穫していただく、台所での具材刻みの作業、食器の片付けとそれぞれの力量や好みに合わせて役割分担が出来る。又、座席の配置も楽しく食事が出来るよう、利用者の相性や健康状態を考慮し必要時には変更している。 | 入居者の希望や旬の食材を活かした献立を作成しているが、畑の野菜の収穫や差し入れ食材も新鮮なうちに活用するために臨機応変に変更している。調理を得意とされてきた方のキャベツの千切りや、茶わん洗い、下膳など入居者もできることで食への関わりを持っている。また、職員も同じものを一緒に摂ることで、思いを共有しながら、発せられた味の評価や食べたいものの要望などを次回に活かしている。 | 離島にあって食材購入は不便なことも多いと察するが、素材を活かした調理や「優海食堂」に集った入居者・職員の笑い声が最高の食事時間となっている。今後も入居者の楽しみや職員にとっても活力となる食事支援の提供に努めていかれることを期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食後、食事量や水分量のチェックを行い記録をしている。食事量の少ない利用者については食事形態の工夫や、かかりつけ医から処方された栄養剤を提供し栄養のバランスを保っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、全利用者に口腔ケアをしていただいている。自分でできる方には声かけを行い、必要な方には介助を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | それぞれの排泄パターンの把握に努めながら、声かけや誘導を行っている。言葉だけでなく、小さなサインも見逃さないように日々の観察を大切にしながら、支援をしている。 | 把握した排泄パターンや表情などから察し、声かけ・誘導を行っている。また、自立の方が継続できるよう、トイレ内の環境などにも十分配慮している。女性の入居者は基本的に布パンツを使用され、ポータブルトイレも昼夜や夜間のみ等、個々の希望や状況に応じて支援している。おむつを使用される場合には、特にプライバシーに配慮しながら交換を行っている。 | 職員は蒸れや不快感なく過ごせるよう手作り布パットを準備するなど、ホーム独自の工夫が継続されている。「洗えば済むこと」という考えを全職員が共有しており、家族の負担軽減にも繋がっている。変わらぬ支援の継続に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日のおやつに牛乳やヨーグルト、バナナを取り入れている。レクリエーション活動への参加や、掃除などの家事手伝いで体を動かして頂き、便秘予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に大まかな入浴の時間は設定しているが、利用者の希望やタイミングに合わせて、その都度入浴をいただいている。 | 入浴は昼食から少し時間を置き、14時くらいから支援をしている。体調や希望を聞きながら殆どの方が週2～3回入られているが、中には毎日の入浴を希望される方もおられる。菖蒲や柚子などの季節湯支援では、全員が利用できるよう2日間実施している。入浴は入居者と職員のコミュニケーションの時間でもあり、リラックスできるような雰囲気を保ちながら支援している。 | ホームの浴槽ではゆっくり湯船に浸かることができなくなった方に、有明の温泉施設へ職員2名体制で出かけている。入浴を楽しみの一つと捉え、今後も入居者に寛げる入浴支援を継続していきたい。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午前中は、特に体調の悪い利用者以外はホールで活動をされている。午後からは、休息や午睡を希望される方は自室で休んでいただき、極力夜間の睡眠に支障のないタイミングで離床を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人ひとりの薬ケースを用意しており、薬の説明書を添付している。薬の変更がある時は、個人経過や業務日誌で申し送り、全職員が確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの生活歴や力を把握した上で、調理、洗濯、畑作業などの役割を持っていただくことで、張り合いや喜びに繋がっている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 散歩を兼ねての買い物や、知人への面会を目的としたドライブなどに出かけていただいている。町のマラソン大会や運動会見物の際は、家族や地域の方々からの協力もあり楽しんでいただいた。 | 入居者の希望や体調に配慮しながら散歩やドライブなどノートパソコン外出支援に努めている。また、秋祭りや初詣参拝、どんどや参加、マラソン大会応援など地域に出かけ、交流や季節を感じる機会を持っている。身体状況から、外出が困難になってこられた方には、玄関先や窓越しでの日光浴など、外出気分を味わってもらえるよう工夫している。 | この秋ウッドデッキが完成しており、今後はお茶や日光浴など楽しみが増すと思われる。今後の活用が期待される。外出は計画的なドライブ以外にもその日の天候で散歩などに出かけており、それらの身近な外出支援への取組についても家族に知ってもらうことも必要と思われる。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 「お預り金」という形で、ホームで管理している。本人からの要望を受けて、担当職員が日用品の購入をしたり、買い物に同行していただき金額の確認や支払いをしていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族から電話があったときは、直接本人とも話しをしていただいている。会話が困難であったり難聴である利用者については職員が間に入り双方の思いが伝わるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールの窓から、畑や花壇、山の木々が確認でき室内にいながらも季節の移り変わりを感じていただける。毎日職員と利用者共同でホールや廊下、各居室の掃除を行っており、トイレなどの水回りは必要に応じてその都度清掃している。 | 海や山の季節の移ろいを間近に見て取れる高台に建つホームであり、入居者にとってこの環境は何よりの居心地の良さに繋がっている。ホーム内の掃除は職員と共に入居者も「おじゃまします！」と言いながら、スタッフルームなどを掃除されるなど、役割を持ちメリハリのある生活が、温かな雰囲気を作り出している。また、職員自身が大切な環境であることを共有し、入居者との日常に心を注いでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室では、両足を伸ばして自由に寛いでいただいている。玄関先のベンチは気のあった利用者同士談話をしたり、歌ったりしながら気分転換を図れる場所として活用されている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた私物の持ち込みをお願いしている。定期的に面会に来られる家族が、季節毎に衣類の入れ替えや室内のディスプレイをされたり、居室に飾って欲しい写真を持ってこられることもあり、本人にとって居心地良く過ごせる空間となっている。 | 本人にとって安心して過ごせる居室となるよう、入居の際に使い慣れた家具や馴染みの衣類などの持ち込みを依頼している。面会時に衣類の管理や思い出の写真を持参されるなど家族の協力が行われている。壁面には念頭に書かれた本人の年目標の書が掲示され、家族にとっても感慨深いものとなっている。居室は畳敷きやベッドが準備されており、職員はその方の希望や身体状況に応じて物品の位置を検討しながら、使い勝手の良い部屋となるようにしている。 | 掃除や換気の行き届いた居室は、家族や知人にとっても居心地よく過ごせる環境となっている。今後も馴染みの海や山を眺めながら安心して過ごせる居室環境に努めていただきたい。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 車イスでも自由に室内を移動できるようなテーブルやソファの配置にしている。トイレや浴室も確認ができるよう大きな文字で表示している。 | | |